

自らの道を探るために



学長

すずき かずお
鈴木 康司

入学おめでとう。正門脇に美しく咲き誇る桜に迎えられて、21世紀最初の新入生となられた君たちを中央大学は諸手を挙げて歓迎します。

君たちにとって何よりもまず新鮮なのは、これまで君たちが学んできた小・中・高等学校と違い、大学では何をすることも自己の責任と判断において行うということでしょう。時間はたっぷりありますし、強制的な勉強は課せられません。その日その日を遊んでいても誰からもがめだてされずに済みます。しかし、周囲から圧力はかからない代わりに、自分がすべての結果を背負わなければならず、他人のせいにすることはできません。そのことを先ずしっかりとわきまえて下さい。受験勉強から解放された喜びで大いに青春を謳歌するもよし、あるいは、大学でこそ強制されない真の学問を思い立ちもよし、あるいはサイ

クル活動や個人の趣味に没頭しようとするもよし、各人各様であるでしょう。それもすべて、己の責任において全うすることです。

自分の頭で考え、行動し、個性を培い、実力をつける、それが大学です。君たちのなかには既に人生の目的をある程度定めて、例えば法律家になるために法学部に入学した人、経済の本質をグローバルな視点から捉えようと経済学部へ入学した人、公認会計士を目指して商学部に入学者、あるいは自然科学に一生を捧げるために理工学部に入った人、言語学や歴史が大好きなので文学部に入った人、あるいは国際関係分野での仕事を指して総合政策学部に入った人もいます。そのように確たる目的意識を持って中央大学に入ってきた人たちは、勉学に際して迷うことはないかもしれません。

しかし、大部分の諸君はまだやっと受験を終えたばかりで、はきりした目的を持たずに大学に進学したのではないだろうか。だからといって、慌てるには及びません。君たちの前には四年という期間が待っています。この間にじっくりと将来について考え、自分なりの答えを探して頂きたい。最近、大学卒業に際してもなお、自らの道を探る模索しつつ、敢えて就職に踏み切れない人も出ているようでありますが、確かに、人生は一度しかないのですから、迷うのは無理のないところです。大学は、そのような人たちのためにも、将来のキャリアをデザインするために手伝う用意があります。しかし、最後はやはり、自分自身の決断が必要です。この四年間に腰を落ちつけてその準備にいそしんでください。

中央大学の歴史は今から百十六年前に法学部の前身である英吉利法律学校が創立されたことに始まります。その後、経済学部、商学部、理工学部、文学部、総合政策学部の順に設立され、現在では六学部があります。この六学部のいずれにおいても、極めて幅の広い学問を身に付け、複眼的思考を培えるようなカリキュラムが用意されています。学部間の壁もできるだけ低くして、他学部の授業も履修できるように配慮してあります。それは

諸君にできる限り広い視野を持って社会や、人間というものを知ってほしいからです。

大学はいろいろな考え方、いろいろな思想を受け入れて、自由に研究し、論議し、発展させて行くところです。思想と研究の自由は何よりも大学の生命です。ですから、諸君たち、一人一人が自分で自由に物を考え、積極的に答えを出して進むことが要求されるのです。中央大学には、広範な学問分野に亘って優れた業績を上げている一流の先生方が大勢おられます。しかし、このような先生方の真価に接したいのなら、受け身の姿勢ではだめです。自分なりの問題意識に基づいて勉強した結果を質問の形で積極的に先生にぶつけ、先生との対話を通じて己れ自身の答えを生み出すことがそが大切です。

このようにして、数多くの知の花園を探索して行くうちに、諸君の個性は磨かれ、実力も自然に貯えられるのです。そして、また新入生の段階では自分のキャリアについて確固とした目的を持たない人も、四年の間いろいろな答えが出てくるはずですよ。君たちの人生にとってこの時間は社会に羽ばたく助走の時です。中央大学に学んで良かったと明言できるような積極的に生きて下さい。